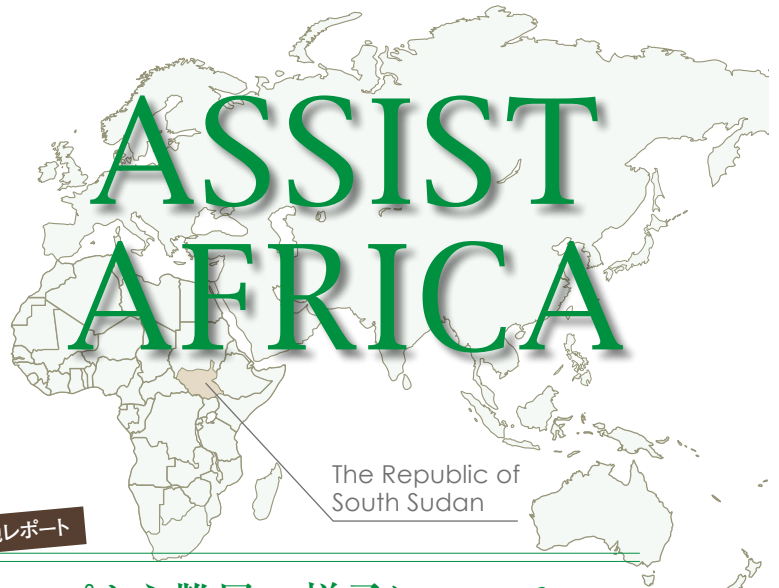




カクマキャンプを視察するPWJ職員と案内する通訳スタッフ



The Republic of South Sudan

ピースウィンズ・ジャパン現地レポート

## カクマキャンプから難民の様子について

### アシスト南スーダン!

今、世界でもっとも多くの国内避難民・難民を抱える南スーダン。その現状が日本に伝えられる機会は少なく、知るすべも限られている。未知の国・南スーダンで何が起こり、今どうなっているのか? タウトク編集部では、NGOピースウィンズ・ジャパンの協力により、その現実の姿を伝えていきます。支援活動続ける同スタッフの奮闘のレポートを紹介しつつ、南スーダンが抱える問題を少しずつひもとき、少しでも身近な出来事だと感じられるようにしたい。

株式会社メディコムでは、読者の皆さんにタウトクを1冊(350円)購入いただくにあたり、その約1%である3円を、南スーダンをはじめアフリカの復興支援のために送金します。

「支援している」という高みに立った目線ではなく、積極的に関わり合いをもつことで現地の様子が気になるようになり、やがて世界で起こっているいろんな紛争や悲劇と、自分たちは決して無縁ではないことを肌で感じるための「3円」だと思っています。ぜひこの1%運動をご理解いただき、本誌連載にご注目ください。

### PWJの携帯サイトはこちら!



世界各地で支援活動続けるスタッフからの「現地活動レポート」、最新のNEWSなどの情報が携帯からチェックできるようになりました! 左のQRコードからアクセスしてみてください!  
<http://www.peace-winds.org/>

タウトクでは毎月、南スーダンの国内避難民・難民支援事業へ送金した金額＝タウトクの販売部数×3円を読者のみなさんにお知らせします。

タウトク6月号の販売部数

●●部×3円＝●●●●円

を支援金としてPWJを通じ南スーダンの国内避難民・難民支援事業に送りました。

peace winds  
JAPAN

月刊タウン情報トクシマ\*

タウトク

medicomm inc  
株式会社メディコム  
月刊タウン情報トクシマ編集部

→ れまでも南スーダン人が隣国ケニアで難民として生活しているお話をお伝えしたことがありますが、今回は難民の通訳として働く南スーダン人のお話をお届けしたいと思います。

今年4月17日から封切された映画「グッド・ライ〜いちばん優しい嘘〜」という映画を皆さんはご存知でしょうか? この映画は、南スーダンとの国境近くにあるケニア北西部の「カクマ難民キャンプ」へ辿り着いたスーダン\*の兄弟姉妹が、移住したアメリカで多くの試練を受けながら第二の人生を送る物語です。この映画の舞台となったカクマ難民キャンプは1992年に設立されました。2013年12月に発生した南スーダンの内紛により、新たに4万人以上の人々がカクマキャンプへ逃れて来たため、現在では南スーダンとソマリアからの難民を中心に約18万人が暮らしています。

キャンプ内では、難民の方々が必要な仕事で我々支援団体を手伝ってくださっていますが、中でも重要な仕事として通訳の仕事があります。キャンプへ辿り着く人々は様々な事情で色々な国々から流れ着き、話す言葉は同じ国出身でも部族によって違うこともあるため、数多くの言語に対応できればいいけません。南スーダン人難民の通訳を勤めている男性ダニエルは、11年前にキャンプに到着しました。現在の年齢は20代前半というところでしょうか。キャンプ内の学校を卒業後、平日は通訳として国連事務所で勤務し、土曜日はキャンプ内の学校で先生として働いています。

ここでおさらいになりますが、2013年12月に発生した南スーダンの紛争は、国内を二分するヌエル族

とディンカ族の対立によるもので、大統領は南スーダン最大の民族ディンカ族の出身、前副大統領は2番目に大きいヌエル族の出身です。この2人の対立が民族間への戦闘へと発展していき、その結果多くの難民が流出し、その一部の人々がカクマキャンプに流れ着いたのです。

通訳のダニエルは、ディンカ族出身です。難民キャンプで通訳を必要とする人は彼と同じディンカ族の人ばかりではありません。対立しているヌエル族の人々の通訳を時には頼まれることもあります。そのような時、「仕事だから『通訳してほしい』と言われれば僕は精いっぱいやる。」という思いになるそうです。私はこのような返事を予想していましたが、彼の心の中に残る複雑な気持ちが顔に出た一瞬を見逃しませんでした。私が彼の立場だったらどう思うのだろうか。おそらく私も彼と同じように「仕事」と割り切って通訳をしたいと思います。民族対立という心の中のわかまりはなかなか消えるものではないと思います。

映画「グッド・ライ」のように新天地で第二の人生を歩むことができる難民はごくわずかです。命がからがら祖国から逃げてこなければいけない事情は色々あるにしても、知らない国の難民キャンプで少しでも落ち着いた生活ができるよう、ピースウィンズ・ジャパンは今年中に380軒の簡易住宅を建設し、2013年12月以降にカクマ難民キャンプへ辿り着いた南スーダン難民の方々に提供していく予定です。

(\*この映画では、スーダンが南北に分断される前の1983年以降の設定になっています)

報告:谷本明美(カクマキャンプ駐在員)



カクマキャンプ



カクマキャンプを視察するPWJ職員と案内する通訳スタッフ



簡易住宅を建設するための資材

\*本事業は、ジャパン・プラットフォームからの助成金や個人・法人のみなさまによる寄付金により実施しています。